



### 中国がわかるシリーズ 41

### モンゴル軍の第二次大西征 その2

ライフネット生命保険株式会社

創業者 出口 治明氏

1252年、クビライが雲南に出立、1253年には、フレグが西方に出立しました。クビライは、同年、[南]宋攻略の第1歩として、東ユーラシアの臍に位置する雲南の大理国を滅ぼしました。この年、フランシスコ修道会のウィリアム・オブ・ルブルクがモンケに謁見しています(カラコルムには、仏教寺院12、回教寺院2、キリスト教会1があったと、ルブルクは伝えています。イスラーム教徒は勿論、フランス人やロシア人もカラコルムに住み着いていました。ルブルクの「旅行記」は、第1級の史料です)。

フレグは、イランに入り、アラムートなどの山城群を攻略し、ニザール派(シーア派の分派)を屈服させました。生き延びたニザール派イマームの後裔はインドに移り住み大財閥を築きました。現在のイマーム、アーガー・カーン4世は、NGOのリーダーとしても著名です。

ルーム・セルジューク朝を屈服させ、バクダードに入ったフレグは、1258年、カリフを殺してアッバース朝を滅ぼしました。イラン、イラクの地のシーア派とスンナ派の中核はこうして姿を消したのです。1259年、フレグは、マラーガ(アゼルバイジャン)に天文台を開き、アラビア最大の数学者、ナスィールウッディーンを台長に任命しました。この天文台には、東西の優れた学者が集められ、付属図書館には、バクダードから持ち込まれたカリフの蔵書も含まれていたのです(ナスィールウッディーンは、1271年、「イル・ハーン天文表」を完成します。マラーガの天文台は、大元ウルスの大都の司天台の模範となり、また後世のティムール朝、ウルグ・ベク天文台などにも大きな影響を与えました)。

1260年、シリアを席捲したフレグは、モンケの訃報(1259年、南宋攻撃の陣中で没)を聞いて、ほぼ無傷の大軍を引き上げました。この2度目の大旋回により、エジプトと地中海世界が救われたのです。しかし、フレグもまた、モンゴルには帰らず、イランの地に、タブリーズを首都とするフレ



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

グ・ウルス(イル・ハーン国)を建国しました(西方世界を統括していたジョチ・ウルスにとっては、これは、予想外の出来事でした。

豊かなアゼルバイジャンの草原を巡ってジョチ・ウルスとフレグ・ウルスの長い確執が始まります)。フレグがイラーンの地に留まったことで、西アジアの宗教色は薄められ、俗権が聖権を従える構造が定着しました。フレグ・ウルスでは、中国画の影響を受けた極彩色のミニアチュール(細密画)が発達しましたが、偶像崇拜を否定するイスラームの聖権の下では考えられなかったことでしょう。